



第 100 回定時株主総会(2024 年 6 月 21 日)質疑応答要旨

質問 1. 当社元役員(瀬島氏)に関するエピソードについて

[岡藤会長 CEO]

瀬島氏に直接お会いしたことはない。同氏は本で紹介され、また経済人から話を聞き、立派な方だと思っていた。

質問 2. (株)WECARS の成長戦略について

[真木プレジデント]

(株)WECARS の強みは全国に競争優位性が非常に高い約 250 店舗を持っていること。また、整備工場やその他の協力会社との整備ネットワークも非常に強く、豊富な消費者の購買データが確りとシステム化されている。

ただ、行き過ぎた利益至上主義により様々な事案が発生したため、その企業風土を改革すべく経営陣が現場にまで入り込み、従業員と直接対話をするなど、コンプライアンスの問題に対して確りと対応していく。また、行き過ぎた利益至上主義の原因であったインセンティブ制度も改革。事案発生後、買取は 50%減、販売は 80~90%減と数字が大きく低下したが、現在は、買取が 80~90%程度まで、販売も 50%程度まで回復。「お客様第一主義」を掲げ、数字よりも先にお客様に信頼いただける会社にすることを優先し、その後、収益の回復に繋げて行きたい。

質問 3. 理系の女性学生に対する大学への育成投資について

[小林 CAO]

当社は、採用活動において長い間、理系の女性学生との縁が遠かったが、昨今は人気を得られるようになった。ただ、当社は商社であり、理系の専門性をそのまま活かして仕事をする領域は限られる一方で、大学への投資や寄付を求める話は引きも切らず、特定の大学への寄付が難しいのが実情。採用に際しては、理系の女性学生を採りたいとの思いはあり、理系の女性学生が求めるものは何かを精査し、説明会などを増やしている。

質問 4. バークシャー・ハサウェイ社との協業可能性について

[鉢村 CFO]

2023 年 4 月に岡藤会長 CEO と共に、バフェット氏と商社のトップバッターとして面談した際、当社経営陣に対し、極めて高い信頼を寄せており、引き続き協業の可能性を模索していきたいとのコメントをもらっていた。また、その後の 2024 年 2 月に発表されたバフェット氏「株主への手紙」においても、当社株式の保有比率が約 9%に増加していることが述べられている等、良好な関係が築かれている。

協業については、バークシャー・ハサウェイ社による当社への投資が公表された 2020 年 8 月から継続して検討していたが、双方にとってメリットがある案件に取り組むことを考えると、自ずと協業出来る案件は少なくなる。バークシャー・ハサウェイ社は利益貢献の約 6 割が上場株投資によるもので、残り約 4 割は当社のように傘下に抱える事業会社からの貢献である。今回、協業第 1 号案件として、その傘下事業会社の 1 社である 1851 年創業の米国アパレル・アンダーウェアブランド「FRUIT OF THE LOOM」の日本を含むアジア市場におけるマスターライセンスを 2024 年 6 月に取得し、取り組みを開始した。日本、アジアにおける繊維分野での当社の強いプレゼンスへの期待が、協業に至った理由である。本件に限らず、大小様々な案件についてバークシャー・ハサウェイ社と話をしており、今後も協業に取り組んでいく考え。



質問 5. 男性社員の育児参加への支援について

[小林 CAO]

男性・女性を問わず、両者に益する働き方改革関連の施策を実施してきたことにより、当社女性社員の出生率は全国平均と比較し大きく伸びた。今後も、男性社員の育児休業の取得率を 100%とすることや早く職場に復帰した際の給付金の支給、フェムテックの活用など、男女問わず、持続可能な働き方を続けられるような施策を打ち出していく。

質問 6. 株式分割についての考え方

[鉢村 CFO]

6 月 7 日、当社 HP 上に、株価や株主構成、費用対効果などを総合的に勘案し、株式分割については引き続き検討するアナウンスを出した。株式分割の目的は、流動性を高め、多くの株主の方に当社の株を買っていただくことだと考えているが、現在も毎日 300~400 万株と多くの売買が行われている。個人株主(単元株ベース)についても、既に 18 万人を超えており、自己株式を除いて全体の 13%程度を占めている。現時点で株価は 7,300 円、100 株だと 70 万円強のレベル感であり、引き続きよく状況を見ながら判断していきたい。

[岡藤会長 CEO]

株式分割による、株価あるいは時価総額への影響は他社事例を含め日々研究しているが、株価が下がっている事例もあり、慎重に検討したいと考えている。

質問 7. 東京本社ビル建替による周辺地域への影響について

[小林 CAO]

当社の青山本社ビル建替については、近隣住民に対し 9 回に亘って説明会を開催するなど、丁寧な説明を実施。また、説明会やコンソーシアムのプロジェクトサイトを通じて多くの質問・意見を頂戴した。懸念されていることは「ビル風」と「人員の混雑」の 2 点。ビル風については、何回も検証を重ね、現状より悪化することはない形で建設予定。人員の混雑については、地下道や地下鉄の入り口を建設することで人流はスムーズになり、混雑は緩和され、地域の利便性が図られる予定。必要な行政官庁の許認可は全て取得済みであり、懸念はないものとする。

以 上